

第1回 酒田市子ども・子育て会議「ワークライフバランスに関する勉強会」報告

日 時：平成28年1月18日（月）16：00～17：45

場 所：酒田市交流ひろば 研修室

出席者：酒田市子ども・子育て会議 近藤浩司委員、柏倉二三子委員、阿部喜明委員
 酒田青年会議所 阿蘇義剛氏、若村峰沙氏、横山桂一氏
 酒田市子育て支援課長、商工港湾課雇用対策主査兼地域振興主査、
 まちづくり推進課市民交流推進室長、男女共同参画推進センター推進員、
 まちづくり推進課職員（池田）、子育て支援課職員（阿部、高橋、元木）

計14名

○ ワーク・ライフ・バランス（以下、WLB）の推進についての現状と課題の共有を図った。

【酒田青年会議所、関係各課からの報告】

● WLB意識啓発のための取組と課題

<酒田青年会議所>

- ・28年の活動の柱=WLBの推進
- ・平成28年9月に大会開催予定（①～③の3部構成を検討中）
 - ① WLBの定義=生産性の向上による労働時間の短縮
 （コミュニケーション能力の研修⇒チームマネジメントの強化⇒実現）
 - ② 酒田市ならではの具体的なWLBの実施モデルの提案（イメージの可視化と共有化）
 - ③ 男女の性別によらず仕事も家庭も協力しあうためのパネルディスカッション

<子育て支援課>

- ・就労環境向上セミナー、WLBの出前講座を開催（事業の成果が見えにくい）

<まちづくり推進課>

- ・講演会を開催（参加者の多くが高齢者。WLBという言葉は働き盛りの世代には比較的認知されているが、それ以外の世代の認知度が低い）

<商工港湾課>

- ・厚生労働省の事業メニューのポスター掲示やリーフレット配布、経営者向けセミナー開催、企業回り（年1回）の際に相談あればハローワークへの案内

【WLBの定義、認識などについて】

- ・WLBの定義が曖昧。要は「生産性向上」と「労働時間の短縮」⇒「心の余裕と幸福感」
- ・ノー残業デイを作っても、個人の自由なのでWLBが進むとは限らない。経営者がWLBの必要性を認識し実践することが必要。
- ・経営者（特に高齢者）の意識改革がネック、世代交代が進めば動くのでは。その前にできることはある。
- ・市民、経営者の意識改革が必要。
- ・WとLを分けられるかどうかの考え方に、男女の認識の差異あり。

(男性の理解へ働きかけ、意識づけが大切。LをWに生かす考え方も。)

- ・ずっと働き続けるためのWLBであり、ずっと働き続けられる環境づくりも重要。そのため
の起業も含めて、WLBを考えることも必要。

【山形いきいき子育て応援企業などについて】

- ・認定基準などが中小企業や起業する方の目線ではなく、大企業向けの印象。指標に疑問。
- ・認定企業になっても、何のメリットも受けたことがない。
- ・WLBに向けた、様々助成制度はあるが、基準が厳しすぎるなど現実味がない。
- ・認定企業が増えれば、WLBに前向きに取り組んでいこうとする企業が増えるので従業員
経営者、地域全体にとってもメリットなのではないか。(社会の気運の醸成に効果)
- ・商工会議所の中でも、WLBといきいき子育て応援企業について周知する。

【育児休業について】

- ・WLBの上では、休暇保障が極めて重要。
- ・産休、育児休業取得者をフォローする人員体制の確保が難しい課題。
(特に女性の多い職場では)
- ・企業として、育児休業中の従業員の不安を解消するための相談場所や居場所を用意するこ
とも必要ではないか。希望すれば、不定期に働けるような環境もいいと思う。
(すでに取り組んでいる企業もある)

【これからの取組みについて】

- ・子育て中の当事者に何が一番の問題点か、聞いてみるべき。
(例えば、いきいき子育て応援企業の認定を受けている会社から2名ずつ従業員を出して
もらい話を聞くなど)
- ・青年会議所の取り組みは素晴らしいと思う。良い情報交換ができた。
- ・WLBを進めるために世の中の機運の高まりが必要。経営者のほか、市民や議会の理解も
重要。このような機会を通じ意見交換し進めていくことが重要。